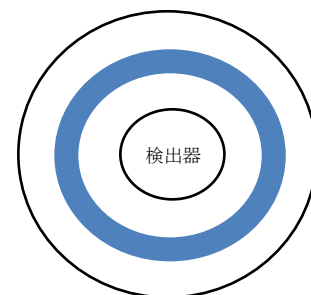
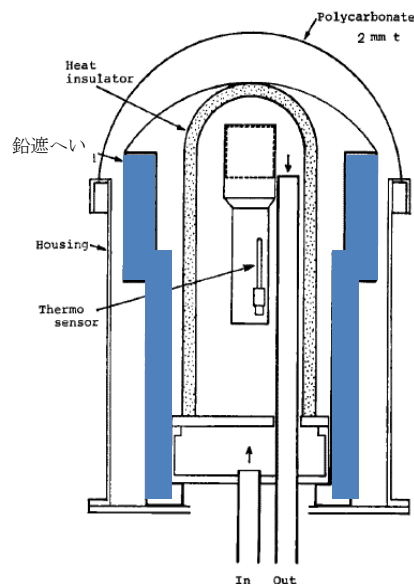


モニタリングステーションにおける NaI 検出器の鉛遮へいについて

1 経緯及び目的

本県のモニタリングステーション (MS) においては、大地及び局舎建屋からの自然放射線の影響を少なくし、上方からの人工放射性核種を感度よく検出するため、NaI 検出器の下方 2π を鉛遮へいしている。しかしながら、他機関では鉛遮へいをしていないため、本県と他機関の NaI 線量率を比較することができない。また、東京電力福島第一原子力発電所事故後においては、当該事故由来の人工放射性核種 (セシウム 134, 137) が地上に沈着しているが、現在のシステムでは当該人工放射性核種に起因する空間ガンマ線が全体の線量率に与えている寄与量进行评估することができない状況にある。

そのため、MS 再建に合わせて鉛遮へいの必要性について検討するため、既存 MS において試験的に鉛遮へいを取り外して比較データを収集する。



2 試験計画

(1) 場所

女川局、小屋取局及び寄磯局

(2) 実施期間

平成 28 年 6 月末頃から 3 ヶ月程度

(3) 実施内容

MS の NaI 検出器に設置している鉛遮へいを一定期間撤去して連続測定する。モニタリングデータは通常どおりテレメーターで収集するが参考値として取り扱う。そのデータは過去や他局のトレンドと比較を行うなど、遮へいの必要性についての検討の一助とする。

なお、並行測定については、機器の確保が難しいこと、既存の検出器と幾何学的条件 (地表面との距離など) が異なり評価が難しくなることから行わないこととしたい。

3 試験実施に伴う監視体制への影響について

電離箱検出器による測定を継続するほか、スペクトルも常時収集してチェックを行うため、試験期間中においても NaI 検出器は、発電所からの予期しない放出の監視としての機能は果たせると考えられる。

なお、センター HP では、電離箱検出器による測定値を速報値としてリアルタイムで公表している。